

## 議会活動の在り方検討特別委員会記録

招集（開催）年月日	令和5年6月29日（木）	
招集（開催）場所	岩美町役場 全員協議会室	
出席委員	田中克美委員長、宮本純一副委員長、升井祐子委員、森田洋子委員、吉田保雄委員、田中伸吾委員、寺垣智章委員、川口耕司委員、柳正敏委員、 澤治樹委員（副議長）	
欠席委員	橋本恒委員	
議長の出席	あり	
職務出席者	濱野議会事務局長	
傍聴者	なし	
開会	9時57分	
記録者	議会事務局 濱野局長	
調査事項	別紙日程表のとおり	
協 議 の 経 過		
日程	発言者	内 容
1. 開会	田中委員長	*起立、礼 始める。橋本委員（議選監査委員）は定期監査のため欠席だ。足立議長あいさつを願う。
2. あいさつ	足立議長	挨拶というよりは、始まる前に皆さんに改めてお願いをしたいと思う。長期間こうして特別委員会を開催させてもらっている。きょう皆さんにお願いしたいのは、でき得るならば目標を立ててほしいという、ある程度の期限の目標を立てていただきたいことをお願いしたいと思う。どこかで、例えば報酬の案件だが、結論を出していただきたい。その期限はやはりある程度皆さんで決めて、結論を出していただきたい。それで結論だが、12人が一つの意見になるのが一番望ましいと思うが、最終的には多数決の方向も皆さんには、ご了解してほしいをお願いをしておきたいと思う。それで委員会で決めたことはできるならば、少数意見の人も委員会の意見に従うことを改めて皆さん、この場でこの委員会で決めるときには申し合わせして欲しいと思うので、よろしく願います。きょう委員会を開催するまでに田中克美委員長とは、意見交換をされていて、できるならば目標をはっきりと皆さんの中で持って進めることをきょうこの場でお願いしたいと思うのでよろしく願います。以上だ。
3. 協議事項 （1）今後の活動方向について	田中委員長	それでは協議事項に入る。議長から紹介があったが、事前に議長と議論をし、また副委員長とも議論をして、きょうの提案する内容をペーパー1枚にまとめたので配布する。（資料配布） 今お配りしたものの1枚と別に1枚もので、令和4年6月議

会で前期の議会活動の在り方検討特別委員会報告の中の抜粋だ。抜粋でアンダーラインを引いたところに注目をしていただきたいと付けた。それから綴じたものが一つある。これは智頭町議会の議員報酬問題に関連する資料だ。前回、産経新聞の記事を渡した。産経新聞の記事、智頭町議会の議会だよりの記述などから拾って、議員報酬の増額を巡る経過を時系列でまとめたものとその記事の中に載っていた当時の議長の発言と反対した住民団体の代表の発言を抜粋している。それから今年になって、智頭町議会が2年さらに延期したことの日本海新聞の記事を2本とあと付けてるのは、議会だよりで「町民には周知をした」という発言が、当時の議長の発言として記事を新聞に載せていたけど、この問題が起きてからというか、特別委員会を設置した以降の議会だよりの該当部分を1頁あるいは2頁のときもあるが、それを付けている。これは参考にして後で見ただければと思う。

先ほど議長から提案があった議員報酬の決定に向かう目標の設定で、議決を令和7年、次期改選の前の年の3月定例会としている。これは3月定例会でいいのか、それより前の12月定例会が良いのかは、今後の議論の中ですれば良いと思うのだが、一応3月定例会までに議員報酬増額の議決をすることとそれから、この年の4月から報酬を引き上げるのが目標だ。「時期」と「引き上げ」の目標ということだ。きょうはこのことについて、皆さんと議論をして、できれば全員の意思として確認したいと思っている。

それから、議決に至るまでには、必要な手順や当然それに要する時間というものがある。前期の特別委員会で確認して町民に公表した手順で、資料「R4年6月議会 議会活動の在り方検討特別委員会報告」の中の抜粋に、下の方のアンダーラインの所で述べているが、「我々は我々自身が報酬額を算定して、町民との意見交換でこれを提示し議論をして、その上で、報酬審議会に諮問をする」と。それで答申をいただいて、それを尊重し報酬額として議決をする段取りで、「町民との意見交換（令和6年6月～8月）」と書いているが、これは令和7年3月定例会で議決することを前提に、これぐらいの期間になるのではないかとの見込みだ。

それからもう一つ、きょう提案したいのは、報酬額の算定についてなのだが、議員報酬とその算定方法の考え方について検討をするために、小委員会を立ち上げて7月から議論を開始することにしてはどうかと。ここに小委員会の構成はもう示しているけれど。

それからもう一つは、この町民との意見交換までおよそ1年間、これから1年間ある。この1年の間に、新たな議会の活動の動きを町民に示して、理解をしていただく、理解をも

		<p>っと広げていく取り組みをする。大事な1年間になると思うのだが、これは前期で積み残した政策提言と住民参加の仕組みを作っていくことに取り組むことだ。この点については、きょうではなくて、こう書いているが、今後の方向を議論する特別委員会を7月6日にお願いしたいと思っている。この小委員会を設置となれば、この日の特別委員会の終了後に小委員会も開催して、第1回に着手したいと。</p> <p>最後に、今回の議会だよりに特別委員会の今後の活動を記事として書いていきたいのだが、今準備している議会だよりの原稿の締め切りとの関係で、次の特別委員会を7月6日に開催のお願いをしていることをご理解いただければと思う。</p> <p>報酬の問題だけでは、やっぱり十分でないと思うので、7月6日に向こう1年間かけての政策提言や住民参加の仕組みの検討のことについても、議会だよりでお知らせをしたいとそういう意図でだ。以上だ。</p>
	田中委員長	私からとりあえず発言をさせてもらった。協議事項(1)今後の活動方向についての皆さんの意見をどうぞお願いします。
	澤委員(副議長)	前回の議会活動の在り方検討特別委員会の中で、大多数の方は「早めよう」という意見だったと思っているのだが、今出されているのは元の案に近いと思うがどうか。
	田中委員長	時期的には近い。1定例会分早まっただけの話だ。それと実施目標を明らかにした。
	澤委員(副議長)	前回の特別委員会で皆さんが思っていた1年でも早めようという意見は、採用しないということか。
	田中委員長	議決に至るまでの手順や時間等も考慮しての話だが。それと前回と違うのは、1年間、8月から来年7月まで全議員の活動時間を記録して、それから算定にかかるものだったが、それはやらないということだ。
	澤委員(副議長)	過去3年間、特別委員会でも色々議論をしたと思うのだけど、そういったことを参考にしながら、元々の目標よりも1年早めようという意見が多かったと思っているのだが、これを見ても個人的にはもう1年早めてもいいんじゃないかなと思うが。
	田中委員長	もう1年ということは、来年の4月からか。
	澤委員(副議長)	いや、月はもうちょっと調整してだ。
	田中委員長	問題は手順やかかる時間のことを考慮しているのだけれど、町民の理解を得て必ず成功させたいのがある。そのために、智頭町議会にはおこがましいのだが、住民には周知したと智頭町議会議長が言っている実態がどうなのか。これだけの周知をやって、結局理解が得られず反対されて潰れてしまったという実態が。それで結局、逆に2年延期がさらに2年

		延期。結局、早くやったがために住民との意見交換のことをコロナのことがあったと思うのだけれど、結果としては、そこを飛ばしてやったために、かえって逆に4年遅れてしまった話になるのだ。それはやりたくない。
	澤委員（副議長）	今じゃないのは、あくまでも田中委員長の意見だ。
	田中委員長	それはそうだ。
	澤委員（副議長）	それは田中委員長の意見だから、他の委員の意見を聞いてほしい。
	田中委員長	ほかの委員はどうか。
	川口委員	今、田中委員長が言ったように、その引き上げの設定をして、前回、委員長が言われたように、この8月からの報酬対象になる議員活動の記録は行わないのか。
	田中委員長	副委員長と話をしたのは、やるとしても全員ではなくて、何人か抽出してする。その趣旨は時間を何か計算するというよりは、議会活動在り方検討特別委員会を作って、これまで色々な活動をしてきて、その結果、この間の我々の議会活動が量的にも増えていることを実証するための記録にすればいいと思ったからだ。だから、あえてここには書かなかった。むしろこの小委員会の中で、もう一度算定方法の検討と併せて議論した方がいいのかなと思ったものだから、ここには出していない。ただ全員で1年間、8月から7月までかけてやるのはやらないということだ。
	川口委員	わかった。前回のときに色々な意見が出て、今期中でも早める話が出て、今の提案としては今期中、私達の任期のときに報酬を上げる。それで、前回のときも田中委員長が言われていたのは、「やはり出す以上は町民に理解をしていただきたい、そのための手順も必要だ」とずっと言われていて、私もその通りだと思う。「報酬の引き上げ案を出して、町民に意見が認められないので止めました」では、何のために特別委員会をこうして何年、何期もやってきたか意味がないと思う。そして、これは報酬の引き上げに限らずに、私達の議員活動、議員の質を上げていく特別委員会でもあると思うのだが、一つの目的は「次の議員が出やすいような環境を作るべきだ」であり、議員報酬も含めていると思うので、それで出す以上は、やっぱりある程度慎重にいかない。本当にこれは智頭町議会の二の舞にならないように慎重にしていきたいなと私も思っている。そういうスケジュールの中で今の目標が設定されたのであれば、私は理解をさせていただきたいと思っている。
	寺垣委員	目標を「令和7年3月議会に議決する」で、あと考えたら1年半だな。その中で先ほど川口委員も言われたが、やっぱり理解してもらうのが一番だと思っていて、智頭町議会みた

		いにと言ったらいけないかも知れないが、失敗したらいけないとも確かにそうだと思う。こうやって目標を設定してそれに向かってとなったら、「その1年半で本当に全力を出さないといけないのでは」と何となく思っている。全力を出しても間に合うだろうかと思うぐらいなので、頑張らないと。
	田中委員長	頑張るしかない、後には引けない。
	升井委員	1年半で、丁度いいのではないかと思う。それだけだ。
	足立議長	<p>今、智頭町議会の件だけ出ているが、この前新聞でもご存知だと思うが若桜町議会が定数減にして、次に町民からの意見が出てきた中で、定数を10人から8人に減らしている。それはやっぱりある程度の期間で町民との話し合いをした中でだ。次に出てくるのが報酬をまず1割アップして、期間をとって、再度上げる計画を立てている。それは、やはり議会と町民との話し合いの中で色々な意見が出てきて、何も条件なしではあげることが不可能だったことを聞いている。</p> <p>今、澤副議長が言うように1年半もそれもあると思う。だから、最長で令和7年3月定例会の議決というシナリオの中で、それまでに本当に町民との交流、話し合いを積極的にして理解を得られるようであれば、早めることもおそらく可能だと思う。だから、そのあたりをあまり令和7年の3月定例会にこだわらないで、そこが最終的な目標であって、それまでに早めることがあれば早めて結構だと思うので、副議長の意見もありだと思う。できる限り早く目標を決めて、それならば行動を早めようとお願いをしておく。以上だ。</p>
	田中委員長	その他、どうか。
	森田委員	今、足立議長が言ったことに関連するが、令和7年3月定例会での議決は私も良いと思うのだが、そこに向かうまでのプロセスというか、一つ思うことは、岩美町に色々な団体があると思うが、そういうところにまずは意見交換会を進めていく。そこから、何か町民との接点を作っていくのをこの1年半で、月何回やるとか、具体的なことを決めながら進めていくのを提案したいなと思う。以上だ。
	田中委員長	ちょっと聞いていいか。提案するその意見交換会は議員報酬のことか、それともそれ以外のことか。
	森田委員	報酬のことではなくて、そこに向かって行くまでの町民の議会に対する思いとか。それから色々な要望までではないが、町に対するものだ。そういうことの中で、報酬の選定も含めて色々なことが見えてくるのではないかと私は思うので、まずは接点を持っていく意味で、報酬のことは言わずに、要するに意見交換会をどんどん進めていくことをした方がいいんじゃないかなと思う。
	田中委員長	議員報酬についての意見交換を何故するかと言うと岩美町

		<p>議会でこれまで議論して考えてきてやろうとしたことのみその一つは自分達で議員報酬額を決めることなのだ。それで、何故そう我々がこういう額にしたのかの根拠や考え方、それから、計算の方法などをこちらから説明する。当然その大前提として、議会の役割とかも説明し、議論することになるわけだ。その理解がなかったら、話が前に進まないと思うので、そういう機会として、意見交換会が位置づけられると思う。意見交換をやって、次に何万円かの増額を成功させてる議会は、大体そういう精神、やり方で議会に対する理解、それから併せて、報酬額についても理解をしてもらうという議論をやってるわけだ。それと、それはやっぱり報酬額が決まらないと出ていけないから、「いくらにしてもらいましょうか」という話ではないので、それで提案された意見交換はこれからどんどんやることになると思う。というのは何故かと言うと、政策提言や住民参加の仕組み作りなんかについても、当然、意見を聞いていかなきゃいけないことになると思うので。この1年半の間にそういう機会はたくさん持たなくては、積極的にそういう機会を持っていくことが、議会の姿勢なり熱意を理解してもらう一つの鍵になると思うので、それはやることになると思う。私はやりたいと思っている。これは特別委員会に限らずそれぞれの常任委員会が政策提言とか住民参加など、やるとなると当然常任委員会としても意見を聞くことに機会が増えてくると思うので、それはどんどんやりたいし、やることになる。そういうことになれば、理解が広がっていくと思っているので提案は賛成だ。</p>
	田中委員長	他にあるか。
	柳委員	<p>前回は申し上げさせてもらったが、遅いと思う。僕は、報酬のいわゆる増額部分とその根拠的な部分もしっかりともう議論されてきたと思う。で、もっと意地悪を言うと、例えば言われる方が言うと、「そもそものこの議員報酬の根拠はなんだ」と言われたら、本当にもう根拠なんてない。ただ、今、本当に議会が生活給として見なされる体制に持っていけないと「議会は何もしていない」のではなく「できない」ことをやっぱり議会の内側からきちんと説得しないといけないと僕は思う。それで最も危険なのが、確かにこういった議員活動としての時間の積み重ねも必要なのだけれども、これを持っていくと橋本委員が言っていたけども、時給換算したときは、逆に槍玉に挙げられるので、僕は議員活動としてこれこれと列挙して、各々で時間の割り当ては違うことを明確に言うことだ。それから、大事なのは議会が終わった後のいわゆる補償が全く消えてしまっていることも住民に分かってもらわないといけない。それから、どんなに立派な議員でも、4年に1回ある議会一般選挙という選挙の洗礼を受けないと</p>

		<p>いけないことも事実だし、「本当にこの金額で議員ができますか」と言うこと。それから、僕は周りの住民によく言うのだが、政務活動費も実は町議会の中ではほとんど採用がとれていないと。それは事務局体制にも問題がある中で、かたや県議員は比較するべきではないかも分からないのだけれども、政務活動費1年間だけで僕らの年間報酬分だと。そこにはやっぱり色々な議員活動としての政策費が充てられるのだけれども、我々は少し車で移動しても何をしてもしれなりに資料を購入しても、せめて実費だと。新しい勉強することにあっても全て実費だと。こういった中で、「さらなる議会活動の発展、進展を」と言われても、経済的に無理がある方は、すなわち、議会議員の選挙にもやっぱり自分が手を挙げるができない状況があることを僕はもう言わないといけないと思う。積算の根拠的なものは、もう積み重ねてできていると思う。機は熟していると思うし、あとはもうタイミングで、僕はこの前も言ったのだけれど、今が一番良いタイミングだと申し上げた。最後に申し上げるけれども、よく住民で議会の活動が分からんと言われるけれども、一番の議会の責任をもってやる行為としては、具体的政策の最終決定という議決行為だ。もう一つは行財政運営の批判と監視という部分があるのだけれども、議会の議決行為なしに行政は動かん前提の中で、責任を持って、しかも自分が辞めた後も必ずこの責任はずっとついてくるという議決行為を行うのが議会の責任であって、これを粛々と懸命にやっているのだ。色々な、例えば常任委員会であり、全員協議会であり、今しているこういった議員同士の討論をしながら、僕はそこを普通に言わなければ住民もわからないと思う。議会の元々仕組みも活動も、ただ我々は一生懸命議員活動、個人的なその勉強も含めて、一つ一つの議決には、責任持って取り組んでいると思う。それが議員の一番の責任ある仕事なんだと僕は思っている。最後に結論としては、令和7年3月定例会と言わずに今もう行かないと。失敗したらと言うけど、1年後2年後にあっても失敗するときは失敗する。早く出られることが僕は望ましいと思う。</p> <p>一つ提案だけれど、例えば議会だよりも号外でも出されて、議会で議員報酬について検討していると、それぞれの地域に自分らの案を説明に、あるいは皆さんの意見も含めて出向きたいみたいな号外も出されてね、直ちに出来るべきだと僕は思う。以上だ。</p>
	田中委員長	吉田委員はどうか。
	吉田委員	あんまり芳しくないなと思っているのだけれど、こうしてみんな全国で議員報酬を考える問題は方々で起きているのだけれど、「本当にこんなたらたらでいいんだろうかな」と思うよ

		うな気がするの。さっさと片付けてしまいたいなっていう気持ちの方が強い。
	田中委員長	ちょっとよくわからなかったので、もう1回言ってもらってもよいか。
	吉田委員	素早くしよう。早急にとということだ。
	田中委員長	田中伸吾委員はどうか。
	田中伸吾委員	前期のことは、僕はよくわからないのだが、柳委員が言われたことに近いし、「若い人が出てこない」とよく言われるけど、今の報酬のままじゃ、これから先に若い人は絶対出てこないと思う。子育て世代だとか、そういう方。議会に理解を得て、「出てこいや」と言っても、当然この報酬では出てこないのは当たり前だと思う。そこら辺もやっぱり、現状じゃなくて先々のことも踏まえながら、検討していった方がいいんじゃないかと思っているし、もう一つは、岩美町議会の先輩である議友会の皆さんは、どういうふうに思っているかということも意見を伺った方がいいのではないかなという気もする。どうされているのか、ちょっと分からないが。以上だ。
	田中委員長	つもりなんですよ、その引き上げる。
	田中伸吾委員	引き上げるって、じゃあどのくらいか。生活給・・・
	田中委員長	だから、それも検討するということだ。いやいや、今のいわゆるこの間の議論が何か届いてるのかなと思ってしまった。
	田中伸吾委員	上げるのは分かっている。
	田中委員長	その議論をする、検討するということなので、それなのに報酬を上げていかないと議会にでる者がいない、生まれないとか言う話をされるから、「何っ」て思うわけだ。
	澤委員（副議長）	具体的に数字の考えとして言いますけども・・・
	田中委員長	何の数字か。
	澤委員（副議長）	議決する時は、令和6年6月定例会で僕は良いと思う。というのは、過去3年間をさんざん議論しているわけだし、それから、今非常に物価がこれだけどんどん上がって、いくら議員の報酬にしても、色々な生活の部分でどんどん物価高に追いつかないような状況になっていると思う。現に物価が3%上がったとかそういうことから、民間でもどんどん初任給も上がり、それから初任給が上がることから、今度は来年度の人事院勧告は当然民間に合わせるから上がってくるはずだ。だから今の時こそ、そういう我々も議員かもしれないが一般の人間として、この物価高に対して非常に厳しいんだと実感する上では、早く議決して、令和6年6月定例会ぐらいにした方がいいんじゃないかということだ。いわゆるこの年、6月では令和7年、令和6年であるけれども、それはその年には、全員、住民が賛成は絶対ない。



	田中委員長	そんなことは、初めからあり得ない。
	澤委員（副議長）	だから、逆に早くしても全員が反対だということもないということだ。
	田中委員長	それは暴論だ。
	澤委員（副議長）	全員一致はあり得ないのだから。だから、この3年間で議論したことを無駄にしないためには、令和6年6月定例会だ。
	田中委員長	では、令和6年6月定例会で議決するまでの手順を具体的に提案してほしい。
	澤委員（副議長）	手順は、今のものを令和6年に当てはめればいい。令和7年3月を令和6年6月にして、審議会の答申を6年2月にしてもらって・・・、少し計算書をしないといけませんが、この令和6年6月から逆算して、この数字のところに手順を当てはめていけばいけると思う、手順も。
	田中委員長	報酬審議会で審議する期間はどのくらいいると思うか。来年6月に議決するために、審議会に諮問して答申をもらうまでの期間がどれくらいかかると思うのか。
	澤委員（副議長）	それは、報酬審議会の方に「いつまでに」と当然提案するだろう。フリーハンドに出すわけなのか、フリーハンドに。
	田中委員長	「1か月で答申してください」と例えば言うわけか。
	澤委員（副議長）	結局、金額を審議会に提案・・・
	田中委員長	いやいや金額の話ではなく、期間のことだ。審議会が審議する期間があるだろう。
	澤委員（副議長）	だから、審議会には議員報酬の金額を審議してもらおうわけだろう。
	田中委員長	金額は、我々が算出したものを諮問するのだろう。
	澤委員（副議長）	そうだ。
	田中委員長	審議会の審議期間はどうか。
	澤委員（副議長）	それは、まあ1ヶ月でも・・・
	田中委員長	それは無理だろう。それは失礼な話だ。「1か月で答申を出してくれ」なんて言うのは。岩美町でこの前の答申は、6月に諮問して答申が出たのは10月だ。智頭町議会を見ると、10月に諮問して2月に答申が出ている。3～4か月はかかる。それを議会の都合で、1か月で出してくれという、そんな失礼なことはできない。
	澤委員（副議長）	いやだから、その辺の期間は多少相談しながら・・・
	田中委員長	だから、来年の6月定例会で議決だ。議決までの日程を考えてみてほしい。
	澤委員（副議長）	6月だったら・・・
	田中委員長	この手順は抜きにするとしたら別だが。手順があれば、当然その手順に要する時間があるわけだから。
	澤委員（副議長）	これ意見交換会が6月～8月、これはあるだろう。これは

		別に令和6年の頭に持っていった方がいいのかな。
	田中委員長	具体的にスケジュールをちょっと・・・
	澤委員（副議長）	意見交換会とかは・・・
	田中委員長	<p>それと率直に言うが、智頭町議会を見て、記録で見る限りは、それなりに定期的に議会報告会をやっているとか、それから、町民からそういう場面で聞いた意見、要望などを議会としてまとめて、執行部に政策提言しているとか、そういう活動もしている。だから、智頭町議会は一般質問も岩美町議会より質問者は多い。ほぼ毎度、大体7名～8名、多くて9名の時もある。だけど、そういう活動をしながら、私がまとめた資料の1頁に紹介しているけど、増額に反対して住民団体の宮本行雄代表の言葉が、「議決に至るまで住民説明がなく、引き上げ額の根拠が不明。報酬引き上げに値する議会や議会活動とは思えない。」だ。こう言われてるのだ。これが、大河原議長の「議論は議会だよりで町民に周知しており、引き上げの手続きに不備はなかった。」と言うことと全然かみ合っていないのだ。何でこういうことになるのかという話なのだ。率直に言って、前期の議会活動の在り方検討特別委員会で報告書にまとめて言ったように、それから住民の間でも、例えば公開の問題だとか、それから一般質問で質問者が増えてきたとか、そういう点は評価してる。ただ、まだ我々が議会に今要求する、求められてるといふか期待されている政策提言のことだとか、住民参加のことなど、まだまだこれから大いに取り組んでいかなければならない課題なのだ。</p> <p>そういうのをやりながら、報酬額算定して、意見交換もやってという段取りになるわけだ。</p>
	足立議長	<p>田中委員長。「もう少し早くしましょう」の意見もある。だから、来年の令和7年3月の議決が最悪の場合だ。だから、「まずはスタートしましょうよ」と。ねえ、澤副議長。スタートして早くなるのなら、早くすれば良いわけだし。だけど、スタートせずに「ああでもない、こうでもない」と言っているもいけない。進めることは、全議員が賛成だから。令和6年6月も無理かどうか分からないのだから、進めよう。進めながら、早くできるものなら早くしよう。</p>
	田中委員長	<p>時期を早める手立ては、例えば、議員報酬や算定についてのいわば根拠づけだが、そこをまとめるのを集中的にやって早くするとか、それから例えば・・・</p>
	足立議長	<p>令和7年3月がいけないと言っているのではない。結論から言うと、まずはスタートしようと言っている。</p>
	田中委員長	<p>それが合意されればいいのだが。</p>
	澤委員（副議長）	<p>いわゆる議会報酬の算定を早くすれば、それだけ早くできるということか。</p>

	田中委員長	その分はね。ただし、やっぱり報酬の面だけではなく、議会活動の新たな展開をそれなりに目に見える形にしたいので、それもだからやればと。先ほど、寺垣議員が「集中的にかなりの努力をしないとイケない」という意味のことを言ったが、そのつもりでやりたいと私は思っているのだが。
	足立議長	<p>ひとつ田中委員長の心配は、皆が色々と言われるけど、各地区に色々なところに出かけて行って、本当に委員の皆さんが同じレベルで説明し切れるだろうかと心配も今されている。これも事実だ。今上手に言われているが、議員の中にもまだ、議員報酬についての考え方や意見が、同じレベルじゃないという不安も委員長は思っている。はっきりと言える議員ばかりではない。同じことをきちっと説明しきれると皆さんの自信があればいくらでも短くなる。</p> <p>だから、令和7年の3月定例会は、これは最終的な目標だ。それまでに早くできるものであれば、田中委員長、早くしよう。皆さんがそれだけ町民にきちっと説明しきれるのであればいいじゃないか。</p>
	田中委員長	きょうのまとめは、「とにかくスタートする」だ。要するにここに書いてないけど、令和7年3月議会までに議決する趣旨だ。気持ちは。
	足立議長	だから、早くなることもある。
	田中委員長	<p>それで早く展開するためには、4に書いてる意見交換会までの1年間の検討や実行のテンポを速めることがもう一つある。これは僕らの努力でできる話なので、それから再算定の期間も1か月ぐらいの期間を考えているが、再算定も別に必要がなければ、それもなしになる。そうすれば、少し早く諮問が出せることになる。それと審議会のメンバーの皆さんとも、意見交換会をしたいと思っているので、そうなれば審議会の審議のテンポも速くなると思う。だから僕らの努力いかんだと思っている。</p> <p>でも、はっきりさせたいのは、とにかくどんなに遅くても令和7年3月議会までに議決をする。それが早まれば、引き上げの時期も早くすることもできるわけだ。</p> <p>それで、そこに向かって邁進することでよいか。</p>
	皆	よい。
	田中委員長	小委員会だが、資料の3にこれは全く私の個人的な案だけど、この特別委員会の田中、宮本の正副委員長と2つの常任委員会の委員長だ。常任委員長も責任を持ってほしい。
	田中伸吾委員	私は別の小委員会の小委員長でもあり、前期のこともわからない。
	田中委員長	いやいや、前期のことはわからなくてもいい。
	田中伸吾委員	総務教育常任委員会副委員長がいいと思うが。そうすれ

		ば、女性も入ってもらえる。
	田中委員長	女性には入ってもらいたいと思っているが。
	田中伸吾委員	ちょうどいいのでは。
	足立議長	この書いてある提案で良いと思う。女性は両方2名が出てはどうか。
	田中委員長	僕の考えたのは、女性1人で森田委員が産業福祉常任委員会だから、もう1人は総務教育常任委員会から入ってもらおう。その総務教育常任委員会から入ってもらおう者を升井委員にすればいい。
	柳委員	足立議長の言うとおりでそれで合う。
	足立議長	結果的にそうなる。
	田中委員長	いやいや、女性を入れるとはっきりさせたかったからだ。そういう意味だ。 はい。では、両常任委員長と女性2人だ。そこに意味がある、正副委員長じゃなくて。
	浜野議会事務局長	(小委員会設置時の要件を説明)
	田中委員長	今、局長から助言があって、小委員会を作る場合は、①小委員会の名称、②定数、③審査または調査すべき案件を議決する必要があるとのことだ。
	足立議長	これは正式な委員会だな。
	浜野議会事務局長	そうだ。
	田中委員長	①小委員会の名称は、「議会活動のあり方検討特別委員会議員報酬に関する小委員会」、②定数6名、③案件は、報酬額の算定についてだ。
	皆	よい。
	升井委員	総務教育常任委員会から一人なら、私ではなくて柳委員の方が確固とした意見が言えると思うから、推薦したい。
	柳委員	田中委員長が言った女性を採用したいというのは、委員長に考えがあると思う。
	升井委員	私は柳委員を推薦したい。
	柳委員	議論が戻ることになるので止めよう。
	田中委員長	それでよいか。
	皆	よい。
	田中委員長	升井委員、よろしく願います。 それで4に書いてあるが、最初にも言ったが、議会だより に今後の方向をはっきり書くための意味もある。この早くするというのは、編集委員会の編集作業との関係で、7月6日 木曜日午前10時から開催したい。この「政策提言及び住民 参加の仕組みの検討・実行に取り組む」の今後の議論の方向 決めたいということだ。 それで、小委員会もこの日に開催したい。小委員会の活動 の方向、今後の日程などを確認したいと思う。この7月6日

		の両方の議論や確認を踏まえて、議会だよりの記事を私がまとめたいと思う。よろしいか。
	皆	はい。
	澤委員（副議長）	住民との意見交換会の件だけでも、今、岩美町の中ではあらゆる自治会長会、民生委員会の総会、農業委員会の総会などがあり、色々な委員の総会を月1回はやっていると思う。そういうところに出かけて行く考えはないか。
	田中委員長	それも、意見交換会をどれぐらいの規模でやるかも、それから回数も。色々やり方がある。団体のもあれば、それから地域のもあると思うし、「来てくれ」と言ったら「行きますよ」というようなこともあると思う。できるだけ広い人たちと意見交換ができるようにしたいと。
	澤委員（副議長）	それをしようと思えば、今言った各種委員の会に出た方が回数とかは多くなるのではないか。
	田中委員長	それもあと思う。それは、できるだけ多くなるような方向で検討しよう。
	澤委員（副議長）	はい。
	田中委員長	それでは、以上で協議事項を終わる。
4. その他	田中委員長	その他だが、事務局から3点ほど報告がある。
	浜野議会事務局長	<p>それでは事務局から3点だ。</p> <p>最初に、6月定例会において、国頭村との姉妹都市盟約の議決後、具体的に長戸町長から調印式の日程が示されたので報告する。7月15日（土）、3連休の初日に国頭村の議長、町長、教育長、道の駅、観光協会など、11名が来町される予定で、道の駅きなんせ岩美にある海陽亭で18時から交流会が予定されている。岩美町議会からは、正副議長、各常任委員長の4名が出席予定だ。</p> <p>調印式は、翌日の7月16日（日）9時から岩美町役場の庁議室で行われる。こちらには足立議長が出席をされる。国頭村と岩美町の調印式が終わったのち、続いて道の駅きなんせ岩美でも協定が結ばれるということを知っている。最初の報告は以上だ。</p> <p>続いて、2つ目だ。皆さんのお手元に第48回人権尊重社会を実現する鳥取県研修会の資料をお配りしてある。毎年、議員全員が参加をいただいているものだ。この度は米子で開催だ。資料には、締め切りが7月10日と書いてあるが、集約に時間がいただきたいので、7月7日（金）までに事務局に報告をいただきたい。報告方法は、資料の最後に申込書が付けてあるので、住所、連絡先は結構だが、名前と参加される分科会の番号とバスを用意するので、バスに乗られるかどうかを書いて、事務局へ提出いただきたい。それとこの資料の左下に予定と書いてあるが、この度はコロナ等の関係で開</p>

		催は午後1時から4時ということだ。役場から午前8時半にバスがでて、会場には11時頃に着く。それから各自昼食を終えていただき、再度集合していただく日程になっている。丸一日の日程となるので、それを踏まえて申し込みいただきたい。これが2点目だ。
	足立議長	ちょっと。バス以外で自分の都合で行く場合は、交通費はでないことを言っておいて。
	浜野議会事務局長	バス以外の方は、申し訳ないが実費となる。また、受付が12時半になるので、それまでには会場にお越しいただくことのご了解をお願いしたいと思う。
	浜野議会事務局長	最後は、議会活動の在り方検討特別委員会でタブレット端末の導入で小委員会を立ち上げているが、その小委員会からの提案だ。今、導入している他の議会では、LINEの仕事版があり、そのアプリを導入していて、スケジュール管理、通知などに活用している。各議員自身のスマートフォンの契約状況にもよるので、全員に入れてもらうのが難しい状況も今あるので、協力していただける議員には「LINEWORKS」を試験的に導入して運用をさせていただきたいと思うので、希望の方は事務局に申出ていただいたら、宮内書記が、案内するのでアプリの設定をさせていただく。ぜひ協力をお願いしたいと思う。説明は以上だ。
	寺垣委員	質問だ。第48回人権尊重社会を実現する鳥取県研究集会は、原則全員参加だな。
	浜野議会事務局長	そうだ。毎年参加しており、全員分の参加費も予算計上してある。
	田中委員長	その他あるか。
	田中伸吾委員	別件だ。総務教育常任委員会のことについてなのだが、いいか。
	田中委員長	どうぞ。
	田中伸吾委員	沖縄県国頭村の行政事務調査で、国頭村だけでなく他の市町村で行政事務調査をしたい希望があれば、事務局に伝えてほしい。 また、7月の交通安全県民運動に参加するのだが、希望の日を事務局に連絡をお願いする。早めに言ってほしいが、なければこちらで指名する。以上だ。
	田中委員長	その他、委員からあるか。
	皆	ない。
閉会	田中委員長	以上で、特別委員会を閉会する。 *起立、礼 11時05分 閉会

上記のとおり会議の次第を記録しこれを証するため、ここに署名する

議会活動の在り方検討特別委員会

委員長

田中克義

